

## 地域課題の解決に取り組む民間団体や人材の活躍・連携について

### 課題と今後の方向性

#### (1)「地域運営組織」と「公民館」の関係性の構築が困難な状況にある。

本来、公民館は地域づくりの拠点であったはずだが、平成からの生涯学習の流れの中で、地域づくりは他の所管と考えるようになった。学習と実践活動は連動して成果が生まれるはずだが、両者を二元論で考えてしまう。地域住民から見れば、公民館も市役所も一つと考えるのが当然ゆえに不信感が生じてしまう。

#### (2) 社会教育の人材育成は、育成することが目的化しているのではないか。

何のために人材育成するかが不明確で、知識習得で終わってしまう。折角習得したのに活かされることなく、結果、情熱も消えてしまう。人材バンクも同様で、志を持って名乗りを上げて声もかからずやる気を失う事例が多い。

#### (3)「思い込み」でプログラムが決定され、地域の現状や社会の未来を見据えた内容になっていない。過去の成功体験や前例踏襲に流されがちである。

##### ★戦略的な人材育成に取り組むべきではないか。

何のために、どんな役割を担ってもらうという目標が明示され、計画性をもってゴールと現状の間差を見極め、長期的な視点で育成していく必要がある。

##### ★信頼関係の構築

行政は民間団体を最初から信頼することができない。協働で取組んで初めて相手の強みが理解できる。投捨ての委託ではなく対話ある委託が必要

### 生涯学習・社会教育行政の果たす役割は何か。

(1) 様々な省庁、各部局で取り組んでいる施策を整理し、連携可能な領域を見極め、交通整理をする必要があるのではないか。同様のことをそれぞれが推進するよりスクラムを組むことで相乗効果を生み出す。ネットワーク行政の要として、つなげていくチャレンジを続けることが、地域づくりを前進させる力になると考える。

(2) 人材育成のために効果的なプログラムを開発、もしくは有効な事例を全国から集め、情報を整理して発信していくこと。今後、社会教育士がそのエッセンスを習得し、自治体や公民館のレベルで研修の場を担う体制整備ができないものか。